

「書く」ことは自分を高めること

米山 一

今年は昨年より 400 点も増え 4000 点を超える応募がありました。特に中学生がたくさん応募してくれて、うれしく思っています。全国では 3 万点を超える応募作品があります。その中から茨城県では 4 名が全国入選を果たしました。

桜川市立雨引小学校 5 年篠崎灯里さんの「お米からつながる SDG s」が文部科学大臣賞・JA 茨城県中央会会長賞を受賞しました。この作品は「ばあちゃんの手は、どうしてそんなにきれいなのか？」という書き出しで始まります。毎日のように庭の草取りや畑仕事をしているのに、70 歳を過ぎているのに。聞いてみると、「米ぬか」にその秘密があることを知り、米ぬか石けんづくりに挑戦します。米ぬかの隠されたパワーを発見すると、お母さんから「すごい、SDG s だね」と言われ、お米と SDG s との関わりも知り、さらに田んぼと生き物との関わりにまで考えを発展させていきます。全体の構成を考えながら、しっかりとした文字で、最後の行まで書ききったすばらしい作品です。

さらに、3 名が全国優秀賞に輝きました。県知事賞は常陸太田市立峰山小学校 4 年笠原穂さんの「世界一おいしいおにぎりを作るぞ」、県議会議長賞は土浦市立土浦第四中学校 7 年小倉美南さんの「むすび」、そして県教育委員会教育長賞は筑西市立竹島小学校 1 年高橋充稀さんの「のうきぐとたんぼのいきもの」です。

それぞれ年齢（学年）相応にごはん・お米に関わる事柄や問題点を理解し、自分の生活経験に照らしながら、素直に意見や感想を述べていて、読み応えのある作品です。毎年のように大きな賞をいただいているということは、茨城県の児童生徒の皆さんの作文力が向上しているからだと思います。作文を書くことを通して皆さんの心の成長を確かに感じ取ることができました。審査員一同大変うれしく思っています。来年もたくさんのお応募を楽しみにしています。